

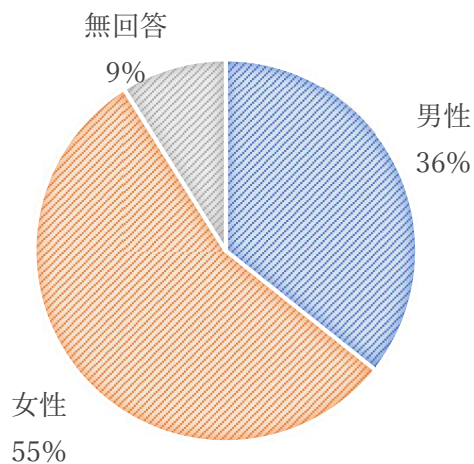
公益社団法人在宅医療助成勇美記念財団助成事業／地域包括ケアにおける医療・ケアの決定プロセスを支える切れ目のない支援体制の構築推進研修『自分らしく生きるを支える医療・ケア』実施アンケート まとめ

日時 2018 年 11 月 22 日(木) 19:00～21:00 場所 釧路市生涯学習センター 多目的ホール

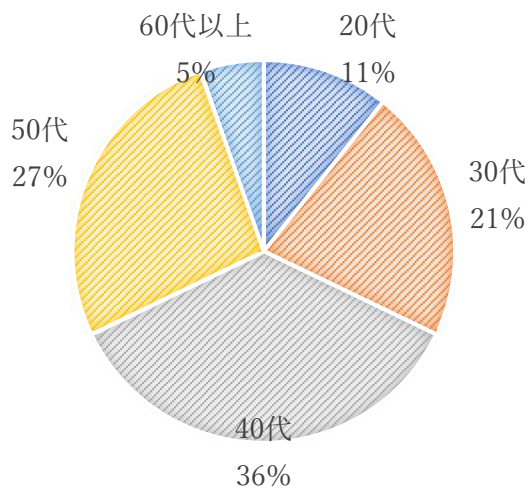
参加 72名 回答者 56名(回答率 77. 8%)

1 基本情報

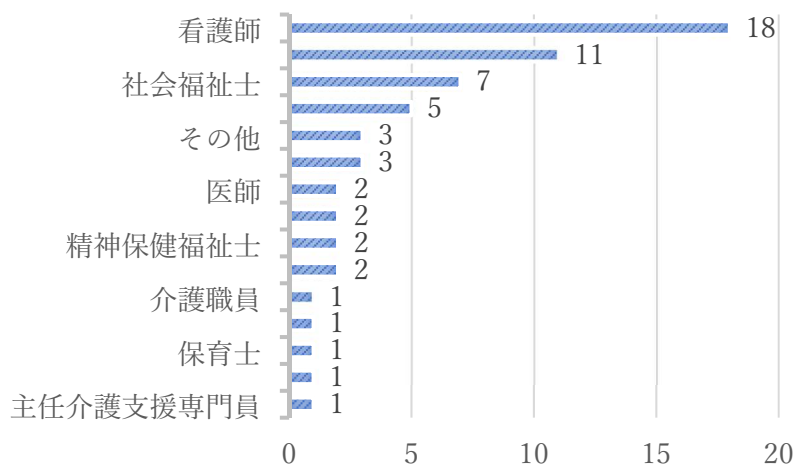
① 性別



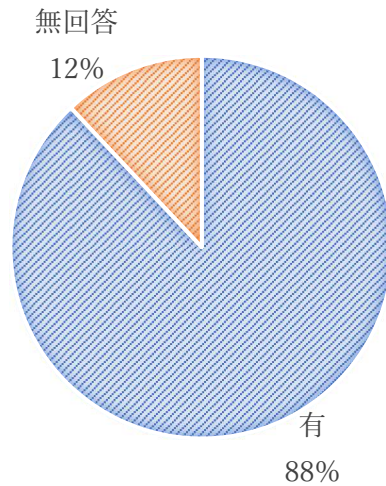
② 年齢



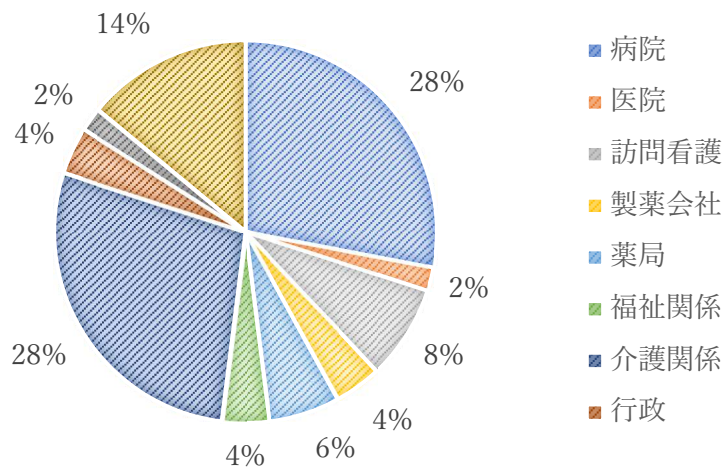
③ 職種



④ 所属

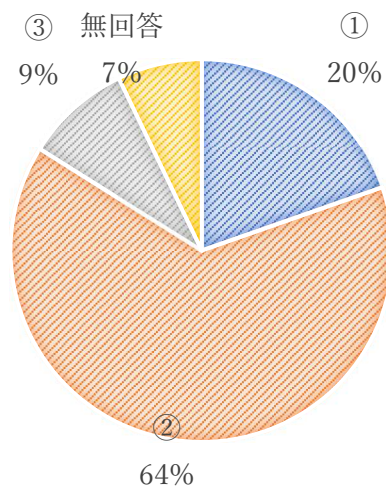


④－1 所属の内訳



2 行政説明:厚生労働省(2018 年 3 月)「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の“考え方”を理解することができましたか。

① よく理解できた ② 理解できた ③ あまりできなかった ④ まったく理解できなかった



(理由)

- ・ 介護施設での看取り、遺言なども作成した経験より。
- ・ 自分自身、人生の最終段階について考えることがあるから。
- ・ 解説が良かった。

- ・ パワーポイントと詳しい説明で、理解を深めることができた。
- ・ プロセスの重要性が理解できました。

3 実践報告:「在宅医療と看取りケアの現状」を通して、感じたことや考えたことがあれば、お聞かせください。

【自由記述】

- ・ 本人と家族療法満足する形。看取りと本人の希望。いろいろ考えさせられました。
- ・ 御本人の自己決定が出来るようにする援助が大切。援助できる人間(人間性)になりたい。
- ・ 本人の意思表示がしっかりしている場合の看取り以外の困難ケースの事例もあると、対応や連携など、より深く知れたのでは？と思いました。
- ・ 自分で意思決定できる方とそれを支える家族がしっかりしていると看取りはスムーズではあるが、認知症などで意思決定できない人は、どのように話をしたり決めたら良いのが難しい。
- ・ 国のニューオレンジプランを早期実践している杉元先生に敬意を表します。
- ・ その人らしく最期を迎えること、その選択肢を関係機関や支援者が拡げること尽力したいという気持ちに改めてなりました。在宅のみならず、病院や他の場所でも本人、家族が安心できるやり方を追求していきたいと思います。
- ・ 在宅の看取りを家族が支えるというのは、今後の核家族、少人数が進んでいる中ではあまり多くはなっていないのではないかと感じた。
- ・ 意思決定が出来る個人を作る教育が必要。
- ・ 在宅の看取りを実現するにはとりまく周囲の理解と能力・実力が大事。
- ・ 自分の考えをしっかりと周りに伝えることの重要性を感じました。
- ・ 終末期の方が自分の住み慣れた家で生活することが、本当に幸せだということが実感しました。その気持ちを大切にしたいと改めて思いました。
- ・ 在宅で支援している方のコミュニケーション能力、本人・家族に初めて会った時でも、心の入り方があっての今回の看取りが出来たのだと思いました。
- ・ 家で最後を迎えることの良さを(すばらしさや大変さ)を言葉に出来、家族の満足した顔も印象。
- ・ 国が押し進めようとする事と、自分たちはどう考えるかのギャップにまだ、戸惑いを感じます。
- ・ 薬剤師の看取りケアの知識不足。
- ・ インタビューを受け、他社に伝えたいと思う程、周囲の関わりが良かったのだと思いました。
- ・ 実際の看取りケアを見て、在宅での看取りについて考えさせられました。
- ・ 本人・家族の意見の重要性を改めて感じた。
- ・ 当院は、在宅はしていません。終末期となる前の検討必要。
- ・ 私は現状では在宅医療や看取りがほとんどできていません。釧路では良く頑張られているなあという印象です。
- ・ 本人・家族は本当に大変だったのかと思いました。
- ・ 本人の意思の尊重と、在宅での看取りについて話されていたお母さんのインタビューが印象的でした。
- ・ 自分の意思を伝える相手、聞いてくれる方の必要性を強く感じた。
- ・ タイミングの難しさを実感する毎日です。
- ・ 若い患者は在宅医療をうけている姿をブログなどで発信する意欲が強い方が多い。しかし、高齢者の在宅患者がもっと発信することで在宅に対する社会の理解は深まる。

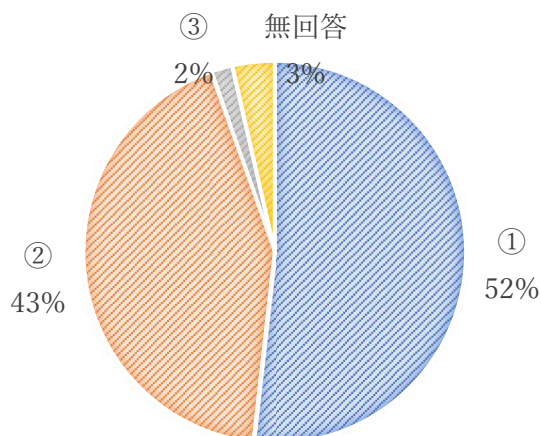
4 グループワーク:「本人の意思決定に基づく医療・ケアの決定プロセスと多職種協働」で、理解・共有できたことをお聞かせください。【自由記述】

- ・ 話して色々勉強になりました。多職種と話す事は大事で、本当に気づきが多くあります。
- ・ 病院で調整の難しさや選択が十分に出来ないままの退院などもあり、意思決定における情報が十分に得られていない現状があるのかな？と感じた。
- ・ 話し合う事が大切。一回やっても本人や家族の心がぶれたりしてしまう。本当に納得するまで話し合う事が大切だと感じた。
- ・ 残念ながら時間が少なく理解共有まで行かなかった。
- ・ 現場の方々と話す機会があまりないので、経験談が聞けて参考になりました。

- ・ 様々な職種と話す事で得られることの多さはありがたいです。知見や視野が広がります。
- ・ それぞれの職種の方とのグループワーク、興味が持てました。意思決定は難しい。
- ・ 早いうちに、本人の意向を引き出しておく事が重要だと感じました。
- ・ 杉元先生が言っていた、本人の意思決定を支援するために在宅スタッフの意思決定…すごい勉強になりました。
- ・ ぜひ、失敗事例を。
- ・ まずはケアマネに相談
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 様々な視点から話が聞けて良かった。
- ・ 他の方の意見が理解でき、それぞれの大変さを共有できた。
- ・ 他職種の意見が聞けて、視野が広がった。
- ・ 家族の理解あれば老人施設でも看取る事が出来る(状態悪くなっても病院受診なくていい体制)
- ・ 現状ではACP(意思決定)できるケースは少ない。今後広まっていくことを期待。
- ・ 専門職や家族の話を聞いた。
- ・ 色々考えるいい機会になりました。(元気なうちに最期を話し合う事は大事)
- ・ 本人だけではなく家族の意向も確認しながら進めていく。1人だけで決めず、皆で考えていくことが重要。
- ・ コミュニケーション能力が自身に不足しているように感じました。ケース別でマニュアル通りにいかない。
- ・ 意思決定の大切さと、繰り返し聞くことの重要性を感じた。
- ・ 本人を中心に！周りは同じ方向を向くため話し合い！

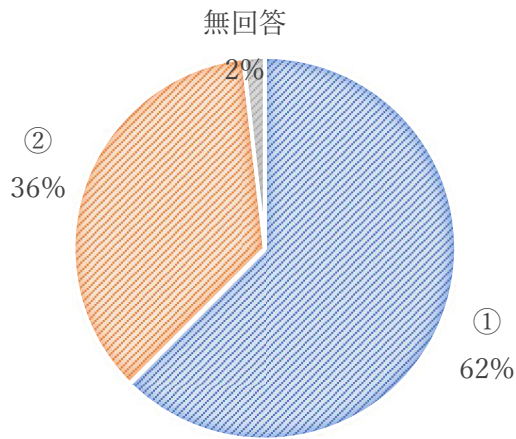
5 今日全体の感想をお聞かせください。

- ① とても良かった ② 良かった ③ あまり良くない ④ 良くなかった



6 本法人では、病院・施設・在宅などの生活・療養の場に関わりなく、本人の意思決定に基づく医療やケアが受けられる体制づくりが必要だと考えていますが、本日の研修会を踏まえてあなたはどのようにお考えかをお聞かせください。

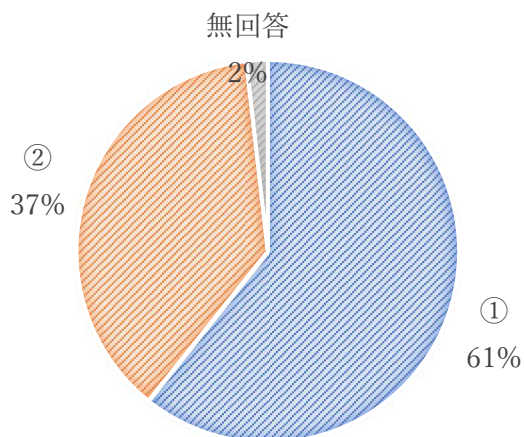
- ① とても必要だと思う ② 必要だと思う ③ あまり必要ないと思う ④ まったく必要ないと思う



6-2 6で「① とても必要だと思う」と「② 必要だと思う」と回答された方に伺います。そのために、次のことが必要だと考えていますが、あなたはどのようにお考えかをお聞かせください。

○ 本人・家族・地域住民等が自ら日ごろから、どのような医療・ケアを希望するかを関係者で話し合うこと

① とても必要だと思う ② 必要だと思う ③ あまり必要ないと思う ④ まったく必要ないと思う



○ 本人の意思決定の内容やその変化等を関係者で共有するための地域共有のシステム

① とても必要だと思う ② 必要だと思う ③ あまり必要ないと思う ④ まったく必要ないと思う

